



あの日、そこでは

何が話されていたのだろうか

©福島民友新聞社 出典:「福島の1年」



とみおか
アーカイブ・
ミュージアム
企画展

「震災遺産を考える 2023」 ～ 完全再現・災害対策本部～

会期 2023年 3月4日(土)～5月14日(日)
9:00～17:00(最終入館16:30) 入館無料

会場 とみおかアーカイブ・ミュージアム

◆常設企画「3Dで体験する災害対策本部」(MRシステム)

〈イベント〉
「震災遺産を語る 2023」5月14日(日) 13時～
@文化交流センター学びの森

講演:高橋 満 氏(福島県立博物館)

クロストーク:高橋 満 氏×滝沢 一美 氏*

*元富岡町副町長。震災当時は災害対策本部運営の担当課長

主催:とみおかアーカイブ・ミュージアム 問い合わせ:0240-25-8644

共催:福島県立博物館

The Historical Archive Museum of Tomioka

町民1万6000人の運命を変える決断がなされた災害対策本部。
何が問題とされ、何が語られ、何を考えていたのか。

災害対策本部を完全再現し、残された震災遺産から考える。

2011年3月11日14時49分。富岡町の災害対策本部は役場庁舎2階会議室に設置された。

2014年6月11日。富岡町教育委員会や福島県立博物館などをつくる「ふくしま震災遺産保全

プロジェクト実行委員会」のメンバーが視察に向かった

「富岡町災害対策本部」の跡地は文化交流センター学びの森2階の大会議室にあった。

災害対策本部は、いつ、なぜ、移転したのだろう。

とみおかアーカイブ・ミュージアムは、災害対策本部の部分再現を常設展示している。

そこで頻繁に寄せられる質問。

「ここでずっと原発事故の対策を練っていたのですか?」

恐らく違う。

あの日の夜、災害対策本部の最も大きな議論は、自然災害に対して向けられていた。

町内の避難所も、余震などからの安全確保のために開設されていた。

役場の男性職員の多くは、翌朝から津波被災地での行方不明者捜索に従事する予定だった。

そのために、津波浸水域を記した図面を作り、23時前には交代制とした。

そして翌朝:

今回の企画展は、行政の動きに焦点を当て、災害対応の現場の動きを考える。

結果から逆算する推論ではない、事実の積み上げから見る歴史的局面。現物資料が投げかける災害の
「実際」を感じ取る機会にさせていただければ幸いである。



災害対策本部 部分再現



◆東京方面から

- ・東京駅→JR常磐線特急ひたち利用(約3時間).....富岡駅.....
- ・東京駅→高速バス利用(約4時間20分).....富岡営業所.....
- ・常磐自動車道経由一般道利用(約3時間15分).....

◆仙台方面から

- ・仙台駅→JR常磐線特急ひたち利用(約1時間30分).....富岡駅.....
- ・常磐自動車道経由一般道利用(約1時間40分).....

◆いわき方面から

- ・いわき駅→JR常磐線利用(約40分).....富岡駅.....
- ・いわき駅前→新常磐交通バス利用(約1時間10分).....富岡駅前.....

◆富岡駅から当館まで(一般道約2.3km)

- ・タクシーまたは循環バス利用(約5分)

とみおかアーカイブ・ミュージアム